

令和6年度8月鳥取県定例教育委員会

開催日時 令和6年8月28日(水) 10時～10時50分

開催場所 教育委員室(鳥取県庁第2庁舎5階)

1 開 会

○足羽教育長

おはようございます。ただいまから令和6年度8月の定例教育委員会を開会いたします。最初に教育総務課長から本日の日程説明をお願いします。

2 日程説明

○林教育総務課長

本日は、議題についてはございませんので、報告事項について5件となります。ご審議のほど、よろしくお願い致します。

3 一般報告

○足羽教育長

それでは私から、一般報告をさせていただきます。7月の定例教育委員会は7月31日でしたが、ちょうどその日、そして次の日、全国の高総文祭が岐阜で開催され、長谷川教育次長に視察に激励にいただいたところでございます。その後ずっと猛暑が続いておりまして、さらに台風10号が近づきつつあるが来ないという、どんなルートを通るのか、また1年前の台風7号のことを思うと、西側に入ると危ないとか、そういう状況が去年もありましたので、本当に気を抜かずに子どもたちの安心安全確保に努めたいと思います。ちょうど今日、急遽2時半から台風対策会議があるようで、どんどんずれ込んで週末、また週明けぐらいまで影響が出るんじゃないかということが言われております。十分留意したいと思います。

この間、世界ではパリオリンピックが開催されて、日本選手の活躍がたくさんありました。一方で涙もあったわけですが、いよいよ今日からは、次のパラリンピックがスタートするというところで、また共生社会の実現に向けた視点でも、いろいろ発信ができたかなというふうに思っております。

国内では、甲子園で隣の鳥根県立大社高校が大活躍をして、鳥根県民中が行ったんじゃないかというぐらいでしたが、3勝を挙げ、地方の公立高校でもやれば出来るということを立証してくれました。かたや鳥取県は9年連続初戦敗退ということがクローズアップされて、なんとかうちも頑張らせたいなと思ったところでございます。

日程に従いますと、8月2日から教員採用の二次試験を実施しました。9日まで1週間にわたる長丁場でしたが、なんとか昨年よりも受験率は高かったということですが、これから結果発表を行い、受験者確保に努めたいと思っておりますし、関西からもたくさん受けてくれました。鳥取暮らしということで、関西の合格者を対象に、関西会場のどこかを押えて、こちらから出向いて、二日にわたって相談会を開催して、確保に向かいたいなと思っております。

8月5日、皆生養護学校がボッチャ甲子園出場の報告に来てくれました。3年連続出場になりまして大会は

既に終わりました。なんと初勝利を挙げて、全国ベスト8に進出を決めてくれました。昨年も出た子もいましたし、皆生養護の一つの文化というか伝統になっていくのではないかなと思って期待をしているところでございます。

そして、8月8日、道徳教育研究大会は、私が行って挨拶をしたところですが、書いておりませんがこの日から9日にわたって、以前に委員さんにも紹介した「とっとりハイスクール・アドベンチャー」という、日吉津のイオンと、鳥取北イオンとにブースを設けまして、高校生主体での高校の魅力発信企画を行って、あとで報告がありますけれども非常に盛況でした。私も米子のほうには行って、様子を見ましたが、非常に盛況のうちに終わり、いい発信ができたのではないかなあと考えております。

そして8月9日は、海外指導教員国際理解教育大会でありましたが、これは私が行って挨拶をしたんですが、これもちょっと書いていませんが、同じ日に江府町で、全国の施設分離型、江府町の義務教育学校は5年生までと、6年生からが中学校サイドというように校舎が別れていますが、全国には義務教育学校が207校あるんですけど、こういう分離型の学校は全国で12校しかないんですよ。全国で徐々に義務教育学校が増えつつあるんですが、この離れていることの良さがあるのではないかという発信をしようという江府町教育委員会さんの企画で発信をされたところ、全国北海道から九州まで約120人もの方々が取組や状況を視察されて、非常に好評だったということで、これには小中学校課の下田参事監が私の代りに行ってくれましたが、ずっと好評だったということでした。いろんな学びの仕方・在り方が今後益々検討されていく中で、こうしたいい発信ができたというのは嬉しいことで、今後も続けていけたらなあというふうに思っているところでございます。

それから8月19日は、ボーイスカウト連盟団が表敬訪問してくれました。児童生徒が12名、指導者が5名でしたが、福島県で開催された「日本アグーナリー」参加ということで、アグーナリーとは障がいのある方との交流を深めていくというふうな企画で、4年ぶりに開催できたということで、ボーイスカウトのほうも、体験活動を自分たちがどんどんやるだけではなく、様々な方と交流を深めていくということで、非常にこれも意味ある活動だったということで報告を受けたところでございます。

そして8月22日、鳥取東高のレスリング部の生徒さんが、アンダー20のレスリングアジア大会に出場された、その報告に来てくれました。北栄町に在住なんですが、鳥取東高の柔道部に籍を置きながら、ほんとはレスリングがやりたいということで、オリンピックの最中でレスリングの分野が大活躍した、ぜひとも自分が舞台に立つというような思いを語ってくれたしっかりした女子生徒さんでありました。鳥取東高に通いながら週に3日は地元に戻って、倉吉総合産業高校に伊勢先生というレスリングのプロがおられるのでそこで練習をしているということでございました。

同じ日に、江原道との生徒交流に係る表敬訪問とありますが、これは鳥取西高の生徒さんを、県がやっております江原道青少年国際フォーラムに派遣をして、令和4年からこれは開始をされたのですが、コロナがあって、オンライン交流をこれまで2年しました。今回初めて江原道に訪問されて、向こうで江原道の韓国の生徒さんやインドだったり、マレーシアだったりの生徒さんも交えた国際交流をしてくれたという報告を受けたところで、鳥取西高の生徒がどんどん外に出ながらというのが近年目立っている活動ということでした。

そして8月23日、家庭教育推進協力企業、これは社会教育課が所管していますが、平成24年にスタートしたんですが、全国初の取組で、平成30年には700社まで、そしてとうとう県内の1000社を数えることができましたので、1000社目と1001社目の会社のほうに、記念の贈呈を私のほうからお礼も兼ねながらしたところでございます。

そして昨日、佐賀国民スポーツ大会、会期前選手団の結団式が行われ、その後、県小学校長会との教育懇談会が行われました。これも教員の資質向上であったりとか、先生方の労働環境であったりとか、2時間にわたって現場の校長先生方の声、そしてじゃあそれに対してどのように取組を進めていくべきか、様々な意見交換

ができたことで感謝を申しあげたところでございます。

私からの一般報告は以上になります。

4 報告事項

○足羽教育長

それでは今回は先程申したとおり、議事はありませんが、本日の委員会の議事録署名委員は、中島委員と森委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

では早速報告事項に入りたいと思います。

【報告事項ア】 令和6年度鳥取の魅力発見！発信！親子でお仕事体験ツアーの開催

○足羽教育長

報告事項ア、小中学校課、説明をお願いします。

○下田参事監兼小中学校課長兼学びの改革推進室長

小中学校課の下田でございます。よろしくお願ひいたします。それでは、令和6年度鳥取の魅力発見！発信！親子でお仕事体験ツアーの開催結果ということで、報告をいたします。

1頁をお開きください。この親子でお仕事体験ツアーなんですけど、県内の小学校4年生から6年生までの児童とその保護者、東・中・西部で、各15組ずつを目安として行っているものなんですけど、これはコロナ前の令和元年度から行っている事業であります。ただ、コロナの間はなかなか開催が難しかったということや、オンラインでの開催ということがあって、昨年度から今年のような形で行っているということになっております。

目的はここに書いてあるとおりなんですけど、実際にその仕事を見学したり体験したりしながら、楽しみながら、この社会の仕組みを学ぶ。そして、鳥取に生きるということで、ふるさとキャリア教育の一貫として行っているものなんですけど、これはただ単に、体験して終わりということではなく、ここで学んだことを成果物としてまとめ、そしてそれを2月に行われます「ふるさとキャリア教育フェスティバル」の中で、代表の子が発表したり、その成果物を展示したりというようなことで、一貫したものになるようにということで開催しているものでございます。

日時は、東・中・西部コースで、7月の終わりの3日間、それぞれ行いました。

3番に参加者を書いていますが、児童48名、保護者43名ということで、計91名、43組の親子が参加して下さったということになります。ただ今年には本当に応募件数が多かったです。全体で146組の応募がありまして、その中から抽選で91名の参加となったものでございます。

東・中・西部の訪問企業につきましては、そこに書いてありますように、2社ずつ行っております。これは、昨年度1回で終わるのは本当にもったいないぐらいの企業の方の、ふるさとキャリア教育に関してご理解くださって、体験をさせて下さったというようなこと、参加者の方から本当にたくさん「これからも続けてほしい」というような要望もありまして、この度は同じ企業さんで行っております。製造業であったり、それからチュウブさんのように芝とか建築業に関わるもの、そして株式会社LIMNOさんや、一番下のCMさんのような情報産業に関わるようなもの、というようなことで、様々な職種を体験いただけるようにということで、それぞれの地域の中で頑張っておられる企業さんを訪問していただくというようなことで行いました。

5番のところは成果還元というふうにありますけど、詳しくは2頁・3頁・4頁の中に、それぞれの東・中・西部で行われました見学の様子であるとか、それから参加した保護者や児童の感想というものを載せておりま

す。この保護者の感想、児童の感想の中にありますが、実際に体験したことで、これから自分の将来の仕事として考えることが出来たであるとか、それから親も一緒に体験しているということで、一緒に体験して家へ帰ってからも、将来の職業について考えるきっかけになったということがありました。ここでまとめたときよりも、後でまた感想がどんどんきましたので、ここには書いてないことなんですけど、例えば大江ノ郷の子どもの感想の中で、大江ノ卵の殻も大切にしたいと思って庭木の側に蒔いたというようなこともありました。今まで、鳥取の有名な卵ということだったのが、実際に体験してお話を聞いて、企業の方の思いを聞くことで、本人にとっても大事な卵だということ、それで殻まで大事にして庭に蒔こうということであるとか、特別な日に農産加工品をぜひ食べにいきたいとかいう感想があったりとか、意識がすごく深まって、鳥取のことが大好きだなあと感じるような意見がありました。

親のほうの感想は、「こんなに働いている方たちが、鳥取のためにとか、企業愛を感じて、生き生き働かれている姿、これを親子で見れたことがほんとうに良かった」というようなこと。それから、やっぱり、ふるさとの良さということをも自分も感じたので、子どもも感じてくれたらいいなというように、様々な感想をいただきました。

今この形にして2年目なんですけど、今すごく感じているのは、子どもたち、学校の中でふるさとキャリア教育ということで様々な体験をしますが、親も一緒にしていただくということがほんとうに大きいなということを感じているところです。こういった発信をさらに続けていきたいなということを、改めて感じたツアーとなりました。以上でございます。

○足羽教育長

関連して、これは6月議会でも質問があり、鳥取の企業や会社のことを小さい頃からしっかり知ってもらわなきゃいけないかというふうなご質問があったり、いま下田が最後に言いましたが、保護者に働きかけることが必要じゃないかという、まさしくそれにマッチングするような事業を以前から取り組み、昨年からは復活させながらきているところです。現在6社です、これを10社20社にできればいいんですけど、お金だけかければ委託するやり方もあるのかなあと思ったりもするんですけど、おいおい考えて検討を進めたいなと思っているのですが、いい取組だったなあと思っています。なにかご質問・ご意見等ありましたらお願いします。

○中島委員

もともとは夏休みの見学体験ということで、シンプルに考えられたものではないかと思うんですけど、価値があるなということを見つけた中で、その目標ということを改めて考えて、これを増やしていくのか、動画配信にするのか、それを混ぜてなのかというような感じで。今の事業はこれで続けていただきつつ、価値を改めて見直して、今の人口減少対策とか、若者の定住とかいうことも含めたところにリンクさせ方があるのかということ、ちょっと考えてみていただけるといいかなあと。

○下田参事監兼小中学校課長兼学びの改革推進室長

そういった今言っておきた課題がありましたので、昨年度からアウトプットという成果を還元する場があるんじゃないかということで、ふるさとキャリア教育フェスティバルというのを2月に開きまして、そこで先ほど申しあげました各東・中・西部の代表の成果物を出してもらっていて、今途中段階なんですけど、それを今新聞・動画にまとめてくれたりする子があるんですけど、その子たちに発表してもらおう。それをCMコンテストの表彰式も一緒にやりますので、けっこう中学生がたくさん、去年会場に来た中で、小学生が発表するのを中学生が聞いて、すごく興味深く聞いていた。それから保護者の方もたくさん来てくださっていたので、こ

のツアーに参加している人以外の方にも発信する。そして、県民の方も何人か来てくださっていたので、その方に発信する。この度は報道もきていただいていたので、報道とかケーブルテレビ等もお越しくくださるという形で、昨年度に比べても少しずつ浸透して行って、これがより多くの人に伝わるようなことを今、考えて進めていっているところですので、まだもう少しなにか出来ないかなあということについて、また考えてみたいと思います。

○足羽教育長

こういうことをやっているというのを周知していこうと思っていたんだけど、中島委員さんが言われるように、こんなにいい取組なら、10社でいいのか、冬休みにはできないか、あるいは委託してでもできないかというようなことを、拡大する。こっちもほんとにそういう意味では、事務局の戦力も必要で大変なので、企業との調整の役割も必要だろうし。じゃあ来年は10社を目標に、季節を分けてでも、冬場にできそうなところをお願いをするとか、そういうことをちょっと検討してみよう。

○長谷川次長

教育委員会だけではなくて、知事部局とも連携しながら、移住定住のことも含めながら、一緒になって連携をして、あっちのほうが強みを持っておられる部分がたくさんありますので、そうした部分の連携も図っていききたいと思います。

○佐伯委員

私も思ったのは大山乳業さんに関しては、学校給食の牛乳はたぶん全県的にこの牛乳を飲んでいて、中部の体験者の方たちが企業の素晴らしさを知ったんですけども、そのことをなんかの方法で、それがいかに高品質のものを飲んでいるということが実感として捉えられるように繋げて、全県的にやれるなと思いました。それから、親御さんと一緒にやるからすごくいいというのはよくわかる。これに申し込めていける家庭環境という部分が、保護者の理解とか、お仕事休んででも一緒に学ぼうとか、恵まれた環境ではあるなと思ったんです。それはそれでとてもいいことだけれども、子どもたち自身の体験としても欠かせないことで、中学校の職場体験とか、小学校の総合的な学習の時間の取組とかとも繋がりがあろうと思うので、なにか今回のようなことのフェスティバルに行ける人はいいんですけども参加できない人もいますので、ちょっとしたことで情報が映像で見られて「こういうことをやっているんだ」とか「こういうふうにとどめるんだ」ということについても、まとめ方としてもとても難しいことだと思うんですよ。成果物として。そういうことを情報発信していただいて、職場体験でもいい体験をして帰ってくるんですけども、企業の良さとか、従業員さんの思い、「こんなことを一所懸命取組んでいらっしゃる」ということを実感として持って帰ってくると思うんですけども、それをどうやって発信していくのかという部分なんかには参考になる点がたくさんあると思うので、そういうふうに東・中・西の恵まれた企業さんの協力体制の元で今回の取組ができるんだけれども、今回の仕事体験ツアーの企業以外の企業さんも、職場体験で受け入れてくださって、とても丁寧に個々の中学生に接して下さっている例を見聞きしてきましたので、そういうことでの地元の企業の良さを広めていくことには繋がると思うんですけどね。やっぱり働くということが、大変だけれどもやりがいがあるという受けとめ方を生徒さんたちにはしてほしいと思うので、まとめ方の参考にはなると思うので、ぜひフェスティバル以外のところで届くようにしていただくといいかなと。

○下田参事監兼小中学校課長兼学びの改革推進室長

実は、東・中・西で行ったんですけど、東部の体験にも中部や西部のお子さんけっこう来たりとか、地域を越えてこれられるというような方もおられました。たしかに大山乳業なんかは、社会科の学習等でも見学にいたりできるというようなこともあって、どうかなと思ったんですけど、やっぱり「利き牛乳」という普段はできない体験をしたりとか、親子ですということも、より深まるというか、今おっしゃったような働く勤労感というか、そういった働くことの意味とか、やりがいというところをより深く、あとで親子で話したりということで、出来ていくのかなということを思いました。職場体験であるとか、社会見学等の学校教育の中でもやっぱりそういう気持ちをしっかり育てていくということが、大変求められると思いますので、ここで得られた成果等もしっかりと各学校等に伝えながら、なにが大事なのかという辺りを伝えていけたらと思います。

○足羽教育長

はい、そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。なかなか、すぐすぐ拡大というのは難しいかもしれませんが、いろいろやり方を工夫しながら、検討をしていきたいと思います。

【報告事項イ】 とっとりハイスクール・アドベンチャーについて

○足羽教育長

では続きまして、報告事項のイ、先ほど一般報告でも、ちょっと触れましたが、「とっとりハイスクール・アドベンチャー」についてということで、説明をお願いしたいと思います。

○井上参事監兼高等学校課長

高等学校課の井上でございます。報告事項イ、鳥取県立高校・でかける体験入学～とっとり・ハイスクール・アドベンチャー～について、報告をさせていただきます。中学校・義務教育学校の生徒、保護者及び教職員等を対象に、高等学校の取組・専門学科の取組等を広く紹介するような機会として、昨年度から実施しております。高校生が主体となって、各校が創意工夫をこらしたオリエンテーション、発表等を行うことで県立高校の特色、楽しさを発信していく場として設定をさせていただきました。

今年度、西部会場、東部会場2箇所のイオンモールで、それぞれ日吉津・鳥取北ということで、夏季休業中の8月8日、8月9日。西部会場では、倉吉東高・倉吉西高・倉吉農業高校と、鳥取中央育英高校の中部4校と、西部の高等学校で合計12校。東部会場におきましては、中部の倉吉東・倉吉農高・倉吉総合産業と鳥取中央育英と、東部の高校ということで合計11校とで実施しております。周知等は、中学校、それから委託先関連である日本海テレビ・鳥取県教育委員会ツイッター等で周知を図りまして、自由に来場していただくこととして実施をしました。

来場者数は、①西部会場、来場者数約200人、学校紹介ブース対応者数(延べ)約465人(各校平均約39人)
②東部会場、来場者数約300人、学校紹介ブース対応者数(延べ)約850人(各校平均約77人)

その状況につきましては、裏面に写真で載せておりますので、ご覧いただけたらと思います。オープニングから、各校のPRステージ、高校紹介ブースにおいて、自由に各来場者の方に各学校の取組を高校生が説明させていただくような内容、それと各学校の代表の方に集まっていただいて、トークショーというような形で、各校の魅力だとか、高校のアルバムだとかを発表していただくといった取組をしていただきました。

表面の5番のほうに、参加者の声をまとめさせていただいております。来場者の方々なんですけども、「ステージやブースでの話がすごく楽しかった。高校の雰囲気や部活の様子が聞けて良かった。」「校則や学校の雰囲気など、高校生の生の声を聞くことができ、将来を考える参考になった。」「進路をまだ決めていなかったが、

たくさんの高校の話の話を聞け、資料もたくさんの高校からもらうことができたので、家で改めて見てみようと思う。将来のことを考えようと思った。」「高校生の先輩に、考査の勉強の方法を教えてもらったのが嬉しかった。勉強を頑張ろうと思う。」「英語に興味があったが、バカロレアや海外留学など、いろいろな高校に国際的な取組があり、高校にすごく興味が沸いた。」「複数校の雰囲気が知れたのが良かった。たまたま参加できて良かったが、このようなイベントは、中学校をとおして案内してくれたらよいと思う。(保護者)」

企画としては、たまたま来ていただいた方、それから中学校のほうから聞いて自らやってきていただいた方、このような参加者の形になったというふうに思っております。とくに、実施をした側の高校生の声として、「上手く学校の紹介ができていないか不安だったが、回数を重ね、参加者の反応をみるたびに自信が沸いた。」「たくさんの方が来てくれて、単純に嬉しかった。学校や自分のことを誰かに分かり易く伝えることの楽しさや難しさを知るきっかけになった。」「考えてみると、高校生が“見ず知らずの人”に話しかけ、考えながら自分の言葉を伝える機会は決して多くはないと思う。すごく新鮮な体験だったし、自分も一歩踏み出せたと思う。」

実際に実施をした高校生側にとっても、自分を成長させるいい機会になったと考えております。

最後の総括のところにも、同様のことをまとめさせていただいております。

「中学生が高校生と直接触れ合えること、また、一度に複数の高校のことを知ることができること」が、本イベントの魅力と言えると考えております。

各高等学校は、自らの学校を希望する中学生に対して、夏季休業中に学校を紹介するイベントは、各高等学校ごとに持っております。しかしながらそれは、中学生がその学校に行くという形ですので、1校しか知ることができない。しかし、この場所にくると、複数の学校の情報を得ることができる。複数の学校の生徒と直接触れ合えることができる。なかなか中学生が想像できない高校生の姿に対して、直接触れることができるというようなことで、良い機会となったというふうに考えております。高校生にとっても、成長、学びの場になったと思います。今回は、自由に訪問していただくという趣旨で、大型店舗の中を会場として設定させていただきました。夏季休業中ということで、とくに盆前の保護者の方にお休みしやすい機会として、8月の8日・9日という日程を設定させていただいております。一定の方々にはおいでいただけたとは考えてはいますが、中学生の数を考えますと、もっとたくさんの方に来てほしいというのが、率直な思いでもあります。会場・時期等改めて検討し、企画自体は継続させていただこうと思っております。以上でございます。

○足羽教育長

なにかご質問がありますでしょうか。

○中島委員

中学に、学校が訪問する場合というのは、基本的には学校の先生方・校長を中心として「うちの学校の魅力は、こうだから」ということを先生方がまとめられて、それを中学生に向けてプレゼンテーションすることになるじゃないですか。この事業の場合は現れとして表に出ているのは生徒さんですよね。そうすると、おそらく学校ごとに違うんでしょうけど、どういうふうにして、各学校の魅力というのを生徒さんがプレゼンテーションするという現れにいたる経緯というのはどういう形で決まっていくなさかねえ。

○井上参事監兼高等学校課長

各学校ごとにお考えいただいていると思います。ある学校では生徒会の生徒が中心となり、学校のあるあるを紹介したり、おそらく教員の手も入っているとは思いますが、基本的には生徒たちが、自分たちの学校ってどんな学校なのかなということを考えて、発信していただいていると考えております。

○中島委員

うまくいけば、やらされ感なくいくんでしょけど、そこら辺が一見、生徒が出るんだけれども、先生の意向が強いかみみたいな感じの、やらされ感みたいなのにならなければいいなという危惧をちょっと持ったんですけど、そういうことはないですかねえ。

○井上参事監兼高等学校課長

5番の高校生の声を見ていただきましたけれども、これは特例的な声ではなくて、非常に特徴的にこういう声と表情を生徒はしておりましたので、生徒にとっても非常に大きな成長の場になったと率直に感じています。

○足羽教育長

当日の写真がありますが、高校生の発言や、司会者から振られた言葉を即座に返す、笑いを誘う、全然やらされ感よりも、生き生きとして、その場を楽しんでいる高校生たちが次々出てきて、チアリーディングの姿もありますが、踊ったり歌ったり、堂々としたものだったので、きっかけは学校からの働きかけは当然ありますが、日野の子なんか、自分の言葉でしゃべって、自分からお客さんを呼び込んだりしていました。参加した生徒は本当に主体的でした。

○中島委員

はい、わかりました。

○松本委員

本当にいい企画だと思います。おっしゃられたとおりに、生徒さんたちにとってもすごくいい企画、思っていることを表現したり、発表したりという機会があるようでない。とくにこうやって、自分たちで自分たちの高校の良さってなんだと考える機会が準備する中であったと思うし。部活動なんかとまた違う良さがあって、すごくいい企画だなと思います。高校の先生ご自身は、これを生で見られているんですかね。

○井上参事監兼高等学校課長

引率している教員は当然見えています。

○足羽教育長

管理職のほうも見ていた？

○井上参事監兼高等学校課長

はい。入れ替わり立ち替わり、自分のところの生徒はどうかなというところを関心を持って見にこられていました。課題はひとえに中学生の方々、中学生の保護者の方々に、ぜひここにきていただきたいということで。

○足羽教育長

会場がイオンということで、夏休みということで、中学校によって生徒への紹介の温度差がどうもあった。「イオンにいきなさい」というのがどうもなんか。そんな危険な場所じゃないんですが。紹介がほとんどなかったらろうなという学校も、どうもあったようで。一方では「こんないい機会はないので、ぜひいけ」という

紹介をいただいた中学校もあったとか。そこは今度は管理職側への働きかけかなと思います。

生徒によるプレゼンは、いい効果を上げるんだなど。秋口から始まっていくんですけど、中学校に出向いて学校説明を生徒にさせるという仕掛け。ある学校はもうそういうのをしているところもあります。私がいた倉吉西もそのときは生徒を連れて行って、教員がしゃべるよりも、生徒に後輩たちに向けてしゃべらせたほうが、その学校の魅力がよく伝わる。だから出身中学に連れていけばいい。そんなことも検討してみたらと思う。

○鱸委員

イオンモール、とくに、日吉津と鳥取北のポジションを考えると、但馬地区と安来地区、非常に高校生を呼び込むというか、鳥取県の高校の楽しさというところ、地理的にも良かったんじゃないかなと思いますね。それで特に鳥取北なんかは、姫路ナンバーがめちゃくちゃ多いですから、とくにお盆前後、ですから随分但馬地区の子どもさん方が来てくれたら、非常に「鳥取の高校って楽しいな」と思ってくれて、県境を超えた学生の行き来が出来るようなことで、良かったんじゃないでしょうかねえ。日常来てくれるような地理的な繋がりというところも非常にいいなという感じで読ませていただきました。

○井上参事監兼高等学校課長

こういう言い方は適切かどうかわかりませんが、「最も人通りがあるところで、自由に訪問していただける」というところを今回は狙ってみました。一定の成果はあったというふうに思っています。もっとターゲットを絞った周知の仕方であるとか、先程教育長が言われました中学生、あるいは中学生の生徒指導もちょっと考慮した在り方というのも含めて、また来年度以降ぜひとも検討させていただきたいと思っています。

○中島委員

鳥取東はないですね。

○井上参事監兼高等学校課長

一応今回は、学校の希望の参考ということでさせていただいて、インターハイとか様々な行事が重なっていることもありますので悉皆という形でなくて、各校で自由に発表の場をつくっていただくようなことでさせていただきます。

○中島委員

なんか今の話聞いていると、悉皆にしてもいいような気もするんですけどね。

○井上参事監兼高等学校課長

発信の場としてぜひとも効果的に活用していただきたい。

○中島委員

自分たちの魅力・高校の魅力を言語化するという重要な機会となるので、早めに予定を伝えて悉皆にしちゃう。

○井上参事監兼高等学校課長

はい。

○森委員

当日、メディアはどのぐらい取材があったんですか。

○井上参事監兼高等学校課長

中海テレビを含めて、テレビの報道では、新聞数社ということでした。ただ、大きな地震があったので。

○足羽教育長

南海トラフが。

○井上参事監兼高等学校課長

地震が起っていますので、ちょっと報道が少なかった。

○森委員

前宣伝の中に、若い子はあまりテレビを見ないでしょうけど、親御さんはテレビ見ますかから、“生たまご”だとかの番組で、今度やりますみたいなああいう番組で紹介すれば見ますから番宣するだとか、SNSとか、それは大事ですよ。さらにスタッフのお子さんたちが番宣をするという、そういったものを使ったほうが親近感もあるし、リアリティーもあるので、できれば大人が出ないで、子どもが番宣をするほうがいいのかとか。

○足羽教育長

いただいている意見を総合すると、「生徒による」というところを、どれだけ前面に出して、「生徒による高校の魅力発信」というようなのを例えばタイトルにも、生徒による成果のための云々とか、生徒を前面に出す取組にすればもっと効果が上がるのかなあ。

○森委員

せっかくイオンでやってますので、メディアとマッチングするなと思いますので。それにテレビに自分たちが出ていると思うと、親も親戚もそこにチャンネルを合わせて見ようと思いますから、そういう効果もあるのかなあと。たまたま私、米子北高から依頼を受けて、制服のファッションショーを次のオープンスクールのときにでもしたいんだけどという相談を受けたんです。お手伝いちょっとさせてもらったんだけど、生徒みんなモデルにして、体操服からなにか全部夏服・冬服のファッションショーをしたら、3倍ぐらいの方が見てくださったということを知りましたので。出る子たちもウォーキングも徹底して姿勢をよくしてとかなり厳しく教えたので、格好も良くなるので皆乗ってくるんです。皆さんの前に出るから恥ずかしくないようになると、自分たちが主人公で出ると、ひきしまったオープンスクールになるんだなあ。先生たちがやるものより、自分たちが出るとなると。それで成果が出てるんで。

○中島委員

しっかり、県立高校の魅力、発揮しておきたいですねえ。

○足羽教育長

演出を中島さんに、こんな企画で、こんな演出をと。

○森委員

ここは全員出るのでという、ばらけないで1回ここに集まってくるみたいな瞬間は作れる演出をするとか。

○井上参事監兼高等学校課長

裏面に、オープニングの写真がありますけれども、太鼓がけっこう大きな音でして、それも人集めに。

○足羽教育長

では、よろしいでしょうか。報告事項イはこれで終了します。報告事項あと三つありますが、省略してよろしいでしょうか。(同意の声。) それでは報告事項については以上で終了とさせていただきます。

委員の皆さまのほうからその他で何かございましたらお願いします。いかがでしょうか。はい、それでは特段無いようですから、本日の定例教育委員会は以上で終了させていただきたいと思います。次回は、9月11日、水曜日の午前10時からとしたいと思いますが、いかがでしょうか。(同意の声。) では、本日の日程をすべて終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。